

北側に開いた、 北側斜面地に建つ家

曾我部昌史
MASASHI SOGABE

曾我部邸

設計：曾我部昌史＋丸山美紀



居間から見る。右は食堂、その奥は洗面所。左手の階段は屋上テラスへとつながる



洗面所 奥は風呂・トイレ

この家を計画するに当たって最初に行ったことは、見晴らしの良い北斜面地を見つけることだった。北側には、太陽の光が正面から当たる綺麗な風景が広がるし、日差しを遮るためのカーテンなどを窓に付ける必要がない。1年ほどたつてようやく出会ったこの家の敷地は、三角形をした変形の北斜面地で、辺の中で一番長い3辺が生産緑地の広がる北側を向いていた。

北側の風景への開放感を意識しながら、斜面地なりに部屋を配置していくと、大きく螺旋を描くように部屋が並ぶこととなった。遠くに新横浜の街を臨む北西端の屋上テラスから始まって、反時計回りに、居間、台所、食堂、洗面所、玄関、子ども部屋、寝室、予備室と下っていく。部屋といっても間仕切り壁はないから、ねじれた大きなワンルームのようでもある。そして、玄関を除くすべての部屋が北側の風景に向かって開いている。居間は南側にあるのだけれど、食堂を介して北側の生産緑地を臨み、更に、ハイサイドの窓から北側の空を臨むような断面構成となっている。

風呂、洗面、台所といった水まわりのスペースは、北側の窓に面して並べるようにした。こういった、生活の時間の中での結節点となる場所こそ、気持ちの良い風景に面しているべきだと考えたからだ。顔を洗うたびに、日々変化する畑の様子に気づき、料理をしていると、畑に集まる鳥やチョウチョウなどが目の前に飛び込んでくる。風呂は、屋上テラスと同じく、北西の新横浜方向に開いている。湯船に横になっていると、生産緑地の西の端にある大木越しに、遠く新横浜プリンスホテルを臨む。トイレに座っていても同じ景色を楽しめるように、浴槽のすぐ後ろに、同じ方向に向かって便器を配した。

螺旋状に床がつながっているのも、何階、というような表現が難しいのだけれど、

ど、寝室や予備室などがある下の方の階では、明るく落ち着いた環境を得ることを目指していて、一方、食堂や居間などがある上の方の階では、外の風景を楽しむことを第一に考えた。窓の配置や内部の仕上げなどは、そういった意図に従って決められている。例えば、上の方の階では、内部空間をほとんど黒に近い茶色で塗り込めてあるのだけれど、それは、外の風景をきちんと際立たせるためだ。

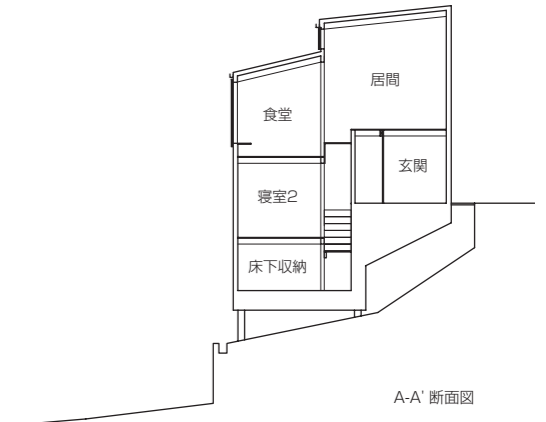
建築としては、間仕切り壁や建具はあまりなくて、床の段差と窓の開け方だけで特徴づけられている。言ってみれば、土地を造成するような感覚で室内環境をつくり上げている。そういった中にパソコンや植物や家電や雑貨などを並べることで、場所ごとの性格が浮かび上がる。設備機器も、そういうものたちと同列に考えた。だから、建築に組み込まれて一体化するようなものよりも、ものとしてシンプルで綺麗に見えるものを選んだ。*

そがべ・まさし—建築家・神奈川大学 教授／1962年生まれ。1988年、東京工業大学大学院修了。1988～94年、伊東豊雄建築設計事務所。1994～95年、東京工業大学建築計画第二講座助手。1994年、ソガベアトリエ設立。1995年、みかんくみ共同設立。2001～06年、東京芸術大学助教授。2006年から現職。
主な作品：NHK長野放送会館（1997）、八代の保育園（2001）、建外SOHO 低層商業棟（2003）、愛・地球博 トヨタグループ館（2005）、ソーシャルデザインカフェソボロ（2006）など。

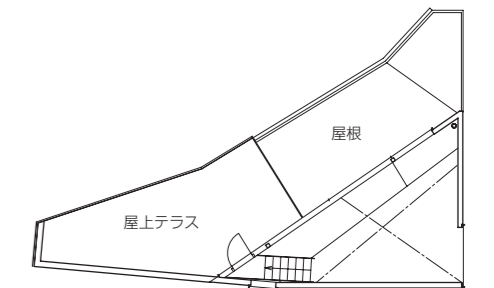
■建築概要

名称：曾我部邸
所在地：神奈川県横浜市
家族構成：夫婦＋子供1人＋犬1匹
敷地面積：121.00㎡
建築面積：54.00㎡
延床面積：134.00㎡
規模：地上2階（床下収納を含む）
構造：木造、一部S造
工期：2005.11～2006.10
設計：曾我部昌史＋丸山美紀
施工：深澤工務店

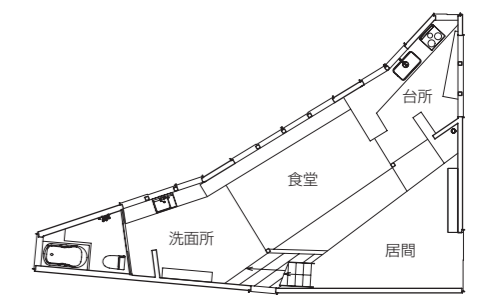
●INAX使用商品●浴槽：ZB-1400H/BW1、便器：GBC-901SU/BW1、DV-315U/BW1、紙巻器：FKF-32C/C、洗面器：GL-A537ASC/BW1、水栓金具：BF-A146TM、BF-A090B ほか



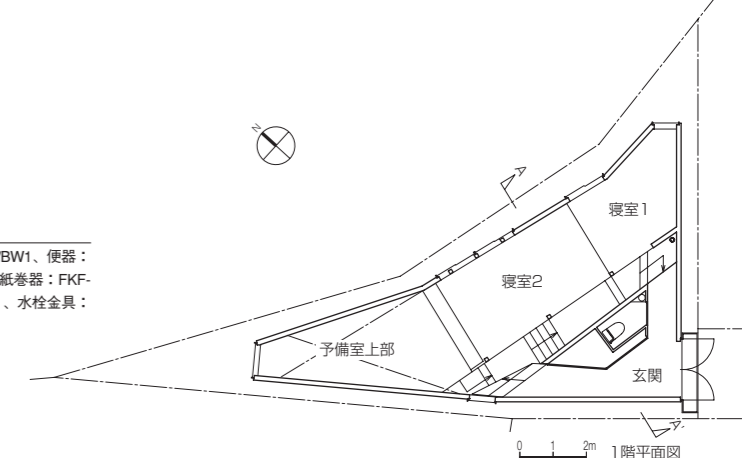
A-A' 断面図



屋上階平面図



2階平面図



1階平面図



左—南東面外観
右—北面全景 手前は生産緑地



左—洗面所手前から玄関方向を見る
右—予備室